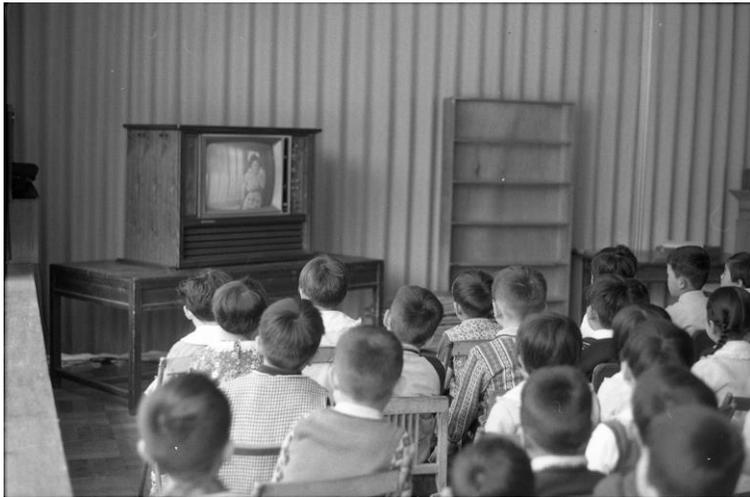


飯能とテレビ放送の 70 年 ～文化新聞でたどる飯能のテレビ史～

引間 隆文

来年 1 月 1 日が飯能市市制施行 70 年の節目に当たることから、令和 5 年度は数々の記念事業が予定されています。当館の収蔵品展「祝う・寿（ことほ）ぐーきつとすの吉祥文様」もその一つ。市制 70 周年を祝しておめでたい意匠の品々を展示しますので、ぜひご覧ください。



原市場小学校のカラーテレビ
昭和 43(1968)年 5 月 飯能市広報撮影

今年、我が国のテレビ放送も 70 年の節目を迎えました。昭和 28(1953)年 2 月に NHK が本放送を開始、8 月には日本テレビ放送網が開局し民間テレビ放送も開始されました。テレビ本放送開始時、受信契約数は全国でわずか 866 件でした。テレビ（当初は白黒テレビ）は高額で、一般家庭ではとても手が届かなかったからです。

当時の飯能におけるテレビ事情について『文化新聞』でたどって見たところ、昭和 28 年 2 月 23 日付の記事「山村にも新流行の文化」には、埼玉県下で「受像の許可」が 33 件あり、飯能では「間野ラジオ商会」「丸木百貨店」（現在の丸広百貨店）のほか、

個人では 2 月 10 日に市川宗貞県議（後の飯能市長）が購入したと報じています。当時は、テレビの購入・設置がニュースとしての価値を有しており、同年 12 月 13 日付では「山村にテレビ初名乗り」と題し、名栗で初のテレビ設置者が現れたことを報じています。

街頭テレビの設置も人々の関心を集めました。昭和 29(1954)年 5 月 12 日付には中央通り、同年 12 月 7 日付には銀座通り、昭和 30 年 11 月 2 日付には大通りの各商店街への設置に関する記事が掲載されています（中央通りは屋内に設置）。5 月 12 日付の記事の見出しには「商店街の発展策に人気王テレビを活用」とあるように、テレビの設置は効果的な集客方法でした。

その後、高度経済成長期を迎えて生活が豊かになり、テレビが広く普及したことで、購入・設置がニュースとなる時代は終わり、街頭テレビも消えていきました。

白黒テレビが一般に普及し始めた昭和 35(1960)年、カラーの本放送が始まりました。昭和 34(1959)年 9 月 19 日付では、本放送に先立ち飯能市公会堂でカラー実験放送の受像公開が行われたと報じられていますが、あまり色が良くなかったようです。

白黒テレビ同様、初期のカラーテレビは一般家庭には高根の花でした。昭和 43(1968)年 4 月 19 日付には、原市場小学校にカラーテレビなどの寄付があり「全生徒たちは大喜び」であったと記されています。昭和 46(1971)年 10 月には NHK 総合テレビの全放送時間がカラーとなり、この頃からカラーテレビも本格的に普及していきました。

放送開始から 70 年。当初は数えるほどだった飯能市内のテレビ受信契約数は、今では 28,216 件(NHK『令和 3 年度放送受信契約数統計要覧』)となっています。